

(様式第6号 別紙)

長崎県福祉サービス第三評価結果報告

①第三者評価機関名

有限会社 医療福祉評価センター

②事業者情報

名称：すくすく	種別：放課後等デイサービス
代表者氏名：馬渡 久乃	定員（利用人数）： 10名
所在地： 長崎県雲仙市愛野町乙 810-1	TEL：0957-36-0559

*施設・事業所情報は、事業所プロフィール参照

③施設・事業所の特徴的な取組

・長年にわたり障害福祉に携わっている法人を母体とし、障がい児サービスに関して新しいミッションを掲げ、経営面から日々の支援に至るまで、組織で一貫された体制の構築が成されている。ITを活用したグループウェアで、情報共有の迅速な対応ができています。電子記録の導入により記録の時間短縮とペーパーレスはもとより、支援内容をリアルタイムに記載でき、保護者等とも共有することができています。

また、報酬改定にて障がい児サービス事業に対する支援の適正化と、サービスの質の向上が求められる中、子ども達の障害特性や成長に合わせ、将来の方向性を見据えた支援を行うことを基本としている。学校や家庭と異なる第三の場所・放課後等デイサービスで、ありのままの自分を出して自分らしく、安心してゆったりと過ごすことができ、発達段階に合わせて、社会性・身辺自立・学習や運動を1日の療育の中に組み込み、最終的にはコミュニケーション能力の向上を図っていくことを目指している。

夏休み期間を重点として、利用者の「～したい」を叶えるチャレンジ月間に充てたり、言語聴覚士による定期的なSST(ソーシャルスキルトレーニング)を行ったりしている。下校して通所して来る子ども達の元気な声や、笑顔で手を振る姿が印象的である。

④第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和元 年 7月 1日（契約日） ～ 令和 元 年12 月16 日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	今回が初めて

⑤総評

◇特に評価の高い点

(経営状況の把握)

母体法人を中心として、IT活用のグループウェアや支援記録を電子化し、事業経営をデータ化している。それにより、迅速で詳細な財務状況の分析が成されている。事業所も月次報告を行ない、各会議で周知・検討している。

(福祉人材の確保・育成計画)

新人研修やキャリアチャレンジ制度といった、昇進・昇格を目指すことができる制度があり、自らの目標を立てられる、働き甲斐がある職場環境となっている。

(利用者本位の福祉サービス)

法人の新たな理念、ミッション「生きる誇りへの、挑戦」を事業所の支援の根幹とし、事業所理念である「子ども達の障害特性や成長に合わせ、将来の方向性を見据えた支援を行う。」とし、日々利用者主体の支援に、重きを置いている。

(適切なアセスメントによる、福祉サービス実施計画の策定)

法人統一のアセスメントシートを利用して利用者の身体状況を詳細に把握し、必要に応じて低学年用や強度行動障害用のアセスメントシートを使用している。利用者の課題となる行動があった際は職員全員がチームとして行動分析を行って、冰山モデルを作成し改善策を検討しており、改善検討までの流れが浸透している。

(状況に応じたコミュニケーション手段の確保)

コミュニケーションの手段として視覚に訴えるホワイトボードや手作りの絵カードを多用している。言語聴覚士が月に2回活動に来ており、専門的な知識をもとにした対応が積極的に行われている。

◇改善を求められる点

(ボランティアの受け入れ)

実習生の受け入れについては、マニュアルが整備されている。現在ボランティアの学生の訪問もあるとのことで、ボランティア受け入れに関しても、積極的に基本姿勢の明文化を期待する。

(不審者対応マニュアル)

不審者が侵入した場合のマニュアルは作成されているが、昨年は不審者侵入時の防犯訓練を行っていないとのことだったので、不審者対応の定期的な防犯訓練の実施を期待する。

⑥第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回、評価を受けたことにより、自分たちが普段行っている事業や支援の振り返りを行うことができました。現在できていることはさらに確実に継続して行っていくことと、改善を求められる点についてはより意識して取り組んでいきたいと思います。特にボランティアへの対応という外部の方への対応については受け入れを体系化し受け入れの活発化に繋げていきます。また、不審者対応について定期的に確実にを行い実際に行った反省点を生かして適切な対応に繋げていきます。評価をしていただきありがとうございました。

⑦第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。

⑧利用者調査及び書面調査の概要

(別紙)